

※本リーフレットは、令和5年度の全国知事会オフィシャルウェアバージョン用に制作したものです。本バージョンでは、リネン生地を使用し、下記のようなデザインで製作しました。現在、実用化・一般販売に向けた取り組みを進めており、新たな生地素材、新たなデザインの新バージョンを複数リリース予定です。この点も、ご考慮の上、応募の参考としてください。



デザイン・織り・仕立てまでオール山梨で製作した夏服

甲斐絹からデザインを受け継ぎ、郡内織物産地で織り上げられた生地

か い き い き 甲斐絹の粋で、夏を装う。

山梨県の郡内（富士北麓）エリアは、1000年以上の歴史がある織物産地です。江戸末期から昭和初期にかけて、羽織の高級裏地「甲斐絹」の産地として全国に知られていました。山梨県では織物産地と協力し、この伝統の「甲斐絹」の粋を受け継ぎ、山梨の暑い夏を快適に過ごすための新しい夏服を製作しました。



江戸末期から昭和初期まで、隆盛を誇った「甲斐絹」は、「粋」な装いとして楽しまれた。

甲斐絹アーカイブより 縞甲斐絹
[大正3年] 製作者：谷村町 平井国太郎

富士山の麓、 郡内織物産地の 歴史と「甲斐絹」



山梨県の富士吉田市・西桂町・都留市・大月市・上野原市を含む郡内地域は、富士山の伏流水の恵みを活かし、糸を染めてから織る先染め織物の産地として長い歴史を持ちます。

江戸時代、奢侈禁止令により華美な服装を禁じられた商人たちが、裏地で贅沢を楽しむために人気を集めたのが「甲斐絹」と呼ばれる薄手で美しい絹織物です。明治時代には「甲斐絹」は夏目漱石の「虞美人草」等、文学作品にも登場するほど全国的に知られる織物となりました。

戦後は、甲斐絹で培われた技術を活かし、洋傘地、スーツ裏地、ネクタイなど、細番手、高密度で織り上げる難度の高い織物を国内外の高級インテリア・アパレルブランド等に供給して発展してきました。

近年では、産地の織物工場が自らブランドを立ち上げ、多彩なファクトリーブランドが数多く集まる産地として注目されています。



〔ノートブック〕



〔ストール〕



〔傘〕



〔ネクタイ〕

山梨の織物と 自然を楽しむ 涼やかな夏シャツ

近年、全国的にビジネスカジュアルやリモートワークが普及し、ネクタイやスーツの裏地に強い郡内織物産地は苦境に立たされてきました。

一方で、国際的にSDGsが謳われ、環境に配慮しながら暑い夏を快適に乗り切るための涼しい服を提供したいと、山梨県、富士吉田市及び山梨県絹人織織物工業組合が協力し、山梨の新しい夏服を製作しました。

郡内産地で製造されたリネンの生地は肌触りも良く快適であり、ゆったりと涼しく着ることができます。デザインは、自然豊かな山梨のライフスタイルをイメージさせる「生成り」や特産の「ワインレッド」、ストライプは「甲斐絹」の「縞甲斐絹」から着想を得ており、伝統と新しさを織り交ぜた、山梨ならではの夏服です。

